

【フォロワー 90人記念】

当Facebook ページのフォロワーが90人を超えました。みなさんいつも当館の活動に注目していただきありがとうございます。これを記念して、今回は本学の創立「90」年目にあたる、1971年の出来事をご紹介します。

1971年は、本学に1967年に新設された食品工学科の第1期生が卒業した年です。食品工学科では、将来社会から要望が高まると予想された畜産加工の技術を学ぶため、カリキュラムでは教養課程から獣医学科と区分して、工学に重きが置かれました。

畜産食品工学科という名称の学科はニュージーランド、ドイツ、オランダなどの海外の大学にはありましたが、日本では本学が初めて開設した学科で、その後の学部学科の改組を経て、現在の応用生命科学部食品科学科へと続いています。

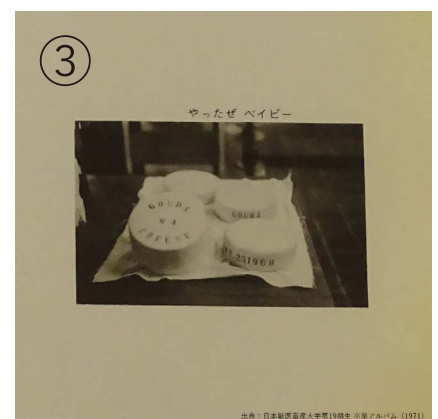
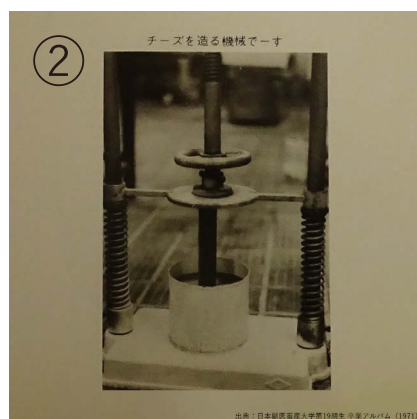
1971年の卒業アルバムでは、畜産食品工学科での乳学実習の様子としてチーズ作りの様子が紹介されています。本学の応用生命科学部 食品科学科 乳肉利用学教室ではチーズの研究に力を入れており、ブラウンチーズや麴チーズなどの製造技術の開発などが進められています。

(学芸員 廣瀬)

■乳肉利用学教室

<https://www.nvlu.ac.jp/food/members/001.html/>

現在行われているチーズに関する研究が紹介されています



- ① 乳学実習の様子。卒業アルバムの写真の一部にはユニークなコメントが付けられています。
- ② 乳学実習で用いられていたチーズを作る機械。
- ③ 実習で作成したチーズ。ゴータチーズという刻印が見えます。

【World Migratory Bird Day】

本日、5月13日は国連が定めた「世界渡り鳥の日」(WMBD: World Migratory Bird Day)です。世界渡り鳥の日は、渡り鳥とその生息地を含めた保全の重要性を広く普及するためのキャンペーンです。渡り鳥が移動する時期は地域や国、鳥の種類によって様々ですが、毎年春と秋、5月と10月の第2土曜日が記念の日とされており、今年は本日5月13日と10月14日となります。

世界渡り鳥の日は毎年キャンペーンの主要テーマが決められますが、今年のテーマは「Water: Sustaining Bird Life」とされ、鳥たちの暮らしを支えている水に着目しています。

世界各地でこの日にちなんだ普及啓発イベント等が行われ、公式ページでは世界で行われるさまざまな記念イベント・普及イベントが紹介されています。

ツバメをはじめとする普段見かける身近な鳥たちも、実は遠くからやってくる渡り鳥だったりします。当館では日本で暮らしているマガモ、ダイサギ、オナガガモ、オシドリなどの渡り鳥標本を多数展示しています。興味のある方はぜひご予約の上ご来館ください。

#WorldMigratoryBirdDay #WMBD2023

■Water #WMBD2023 | World Migratory Bird Day

<https://www.worldmigratorybirdday.org/>

国連の世界渡り鳥の日の公式サイトです。

■Global Event Map

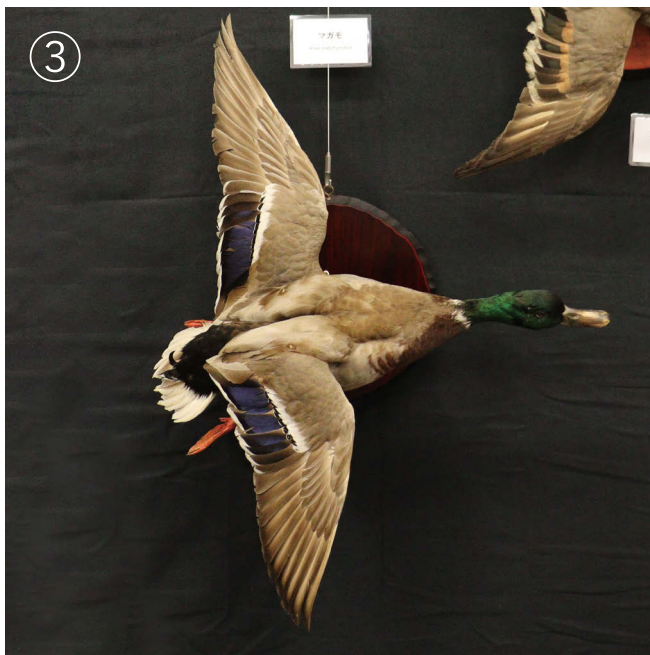
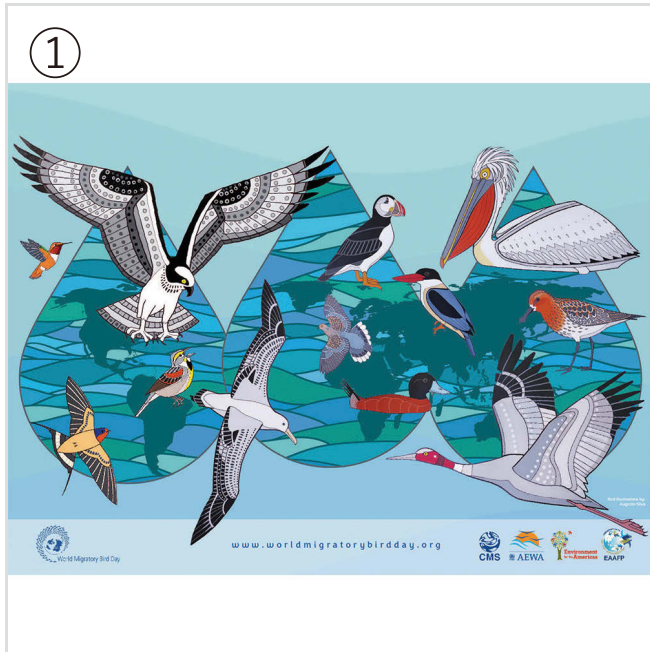
<https://www.worldmigratorybirdday.org/events-map>

世界渡り鳥の日を記念して世界中で開催されるイベントがマップで表示されています。

■5月13日は「世界渡り鳥の日 World Migratory Bird Day」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000059.000039807.html>

(公財)日本野鳥の会が世界渡り鳥の日の紹介とそれに伴うイベントや様々な情報を紹介しているプレスリリースの紹介ページです。日本で開催されるイベント等の詳細も紹介されています。



① 世界渡り鳥の日 2023 の公式ポスター。

② 当館所蔵の渡り鳥：ダイサギ

ダイサギは渡り鳥ではあるものの、国内では亜種のチュウダイサギが夏鳥として、亜種のオオダイサギが冬鳥として観察されるため、一年中観察することができます。

③ 当館所蔵の渡り鳥：マガモ

身近なカモの代表格であるマガモは、冬になるとロシアなどから日本にやってきます。

④ 当館所蔵のカルガモの剥製

マガモと同様にカルガモも身近なカモの代表格ですが、カルガモは渡り鳥ではないため、一年中観察することができます。

【活動日誌128】学芸員課程受講生による実務実習が始まりました

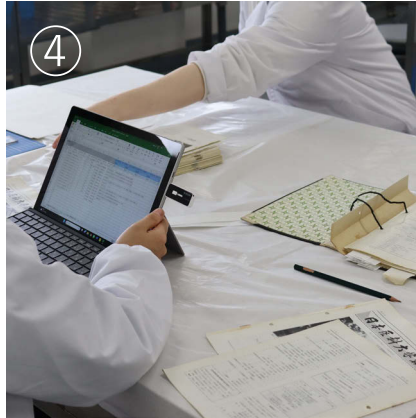
当館は本学で学芸員課程を受講する学生の実習の場としての役割も担っています。昨年度までは実務実習では受講生による展示の作成が主な実習内容でしたが、受講生の増加に伴い今年度から実習の内容が大幅に変わっています。実務実習初日となった先日は、学生たちに当館が所蔵する簿冊の情報整理に取り組んでももらいました。

この日は、本学で資料保存論を担当されている奥田先生に来ていただき、資料を扱う上での心構えから教えていただきました。学生たちは清潔で動きやすい服装をしているか、手や爪が清潔か、時計や指輪をしたままになっていないかなど、美術品梱包輸送技能取得士資格認定(2級)実技チェックシートを参考に、身だしなみを整えてから作業に取り組みました。今回実習で扱った簿冊には、古い大学報や法人報などの冊子が綴じられています。学生たちは全部で10班に分かれ、1班につき1冊ずつ担当する簿冊を決め、綴じられた冊子のタイトルや発行年、書かれている内容を整理しました。

奥田先生による実習は2回あり、次回は自分たちの班が整理した簿冊の情報を元に、博物館での展示内容を立案してもらう予定です。

(学芸員 石井)





① 身だしなみを整える学生たち

傷んでいる資料は少しの衝撃で破損してしまう可能性があるため、本来は割烹着やエプロンなど、ボタンが付いていない作業服を着たほうが良いのですが、今回の実習では状態の良い資料を扱うため、学生には普段から着慣れている白衣を着てもらいました。

② 冊子の内容を確認する学生①

簿冊に綴じられた冊子の内容を1冊ずつ確認していきます。

③ 冊子の内容を確認する学生②

資料を扱うときは筆記用具にも注意が必要です。ペンの場合、万が一資料にインクが飛んでしまったときに消すことが困難です。シャーペンでは、細い芯が折れ、資料の間に入り込んでしまう可能性があります。そのため、資料を広げた机では鉛筆を使うのが鉄則です。

④ データを入力する学生

冊子から得られた情報を、エクセルのシートに入力していきます。

⑤ 実習で扱った簿冊

【お知らせ】大学説明会開催に伴った特別開館をいたします

2023年5月21日(日)に本学の大学説明会を実施します。大学説明会では主に高校生、既卒生、中学生、教諭の皆様を対象に、各学科の説明会や研究室紹介、個別相談会が開催されます。

通常日曜日は開館日ではありませんが、当館も大学説明会に合わせて特別開館いたします。また、通常は当館の見学には事前の予約が必要ですが、大学説明会に参加された方であればどなたでも自由に見学することが出来ます。

大学説明会では、当日の来場人数を把握するため事前申込制を導入していますが、大学説明会の総合受付にて当日の申込みも可能です(スマートフォン等から必要事項をご入力いただきますので、事前にお申込みいただくと入場がスムーズです)。

ご興味のある方はぜひ、大学説明会にご参加の上、博物館まで足をお運びください。ご来館をお待ちしております。

〈オープンキャンパス来校型イベント 附属博物館自由見学〉

受付場所：一号棟1階

実施場所：附属博物館(一号棟)

見学可能時間：10:00～15:00(14:30最終受付)

※大学説明会に参加された方のみ見学が可能です

■大学説明会(全学科)5月21(日)

<https://tinyurl.com/3wvjykhf>

大学説明会の詳細や申込みについてはこちらのページをご参照ください

【お知らせ】当館の活動が紹介されました

当館では、獣医学教育の場で使用されていた掛図の収集・調査・保管に力を入れています。2019年度には収蔵掛図120点のおよびポスター 2点の状態調査を、2020年度から2021年度にかけては調査した掛図のうち貴重な掛図5点の修復を、2022年度から2023年度にかけては新たに学内で発見された掛図22点の状態調査を行ってきました。これまでの調査・修復事業には「株式会社資料保存器材」にご協力をお願いしています。

株式会社資料保存器材様の公式ブログ「今日の工房」にて、当館のこれまでの教育用掛図に関する様々な活動が紹介されました。記事ではこれまでの調査の様子や、現在行っている企画展の情報が記載されていますので、ぜひご覧ください。

なお、紹介記事にもある通り、掛図をテーマとした現在の企画展は5月31日(水)をもって終了となります。見学には事前予約が必要ですので、ご興味のある方はお早めにwebサイトをご確認ください。

■今日の工房 2023年5月19日(金)

『獣医学教育用掛図展～獣医解剖学の系譜と本学の教育～』にて、修理を終えた掛図が展示中です

https://www.hozon.co.jp/koubou/post_17077

こちらの記事で当館の活動が紹介されています

■企画展示

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/about/exhibition.html>

企画展の詳細はこちらをご参照ください

■開館情報

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

見学のご予約はこちらのページをご覧ください

【活動日誌129】

学芸員課程実務実習：資料調査から展示案作成の体験

活動日誌128で紹介した学芸員課程の受講生の実務実習ですが、各先生方にそれぞれ2回ずつ実習を担当していただくことになっており、先日は資料保存論を担当されている奥田先生の2回目の実習が実施されました。

今回は、各班が整理した簿冊の情報を元にして、班ごとに博物館での展示の内容を立案してもらいました。まず前半では、前回の実習での調査票の記入方法、資料の番号の付け方などでのよくある誤りを説明の上、調査票の完成を目指して作業を行いました。その後、班ごとに簿冊の調査によってわかったこと、気になったことなどを話し合い、そこから深めて展示をしようとしたらどんなテーマで実施するかを考えてもらいました。大学のシンボルマークの変遷や新入生のオリエンテーションの歴史など、各班がそれぞれ個性的なテーマを考え、発表してくれました。

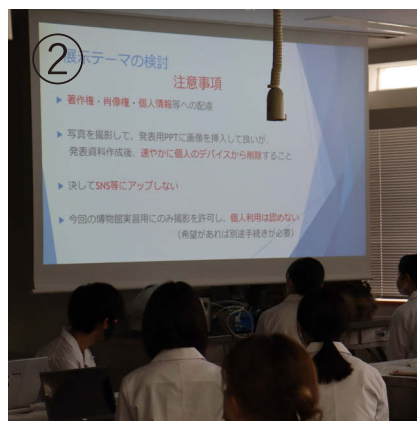
奥田先生による実習は今回で終了で、次からは馬谷原先生のご指導による植物や昆虫の標本づくりを行う予定です。

(スタッフ 廣瀬)

■【活動日誌128】学芸員課程受講生による実務実習が始まりました

<https://tinyurl.com/4ztawf28>

奥田先生による1回目の実習をこちらの記事で紹介しています



- ① 展示テーマについて掘り下げるために、本学が発行した記念誌など大学史に関連した資料を調べている様子。
- ② 展示に使うことを想定して選んだ写真の取り扱いについての注意をしっかりと取り上げました。
- ③ 展示テーマの発表の様子。付属病院にヒョウが持ち込まれたことが記事になっていたことがきっかけで、付属病院をテーマに選んでいました。